

# 「奈良べっ甲」の技術を継承

聖徳太子ゆかりの桜井市の上之宮遺跡から、日本最古の加工された痕があるタイマイの「べっ甲」が出土したのが、昭和61(1986)年。正倉院宝物の中にも、べっ甲細工が伝えられている。1300年以上の歴史を持つ伝統工芸品「奈良べっ甲」を現代に伝えているのが、同市茅原、池田工房のべっ甲職人・池田柏藻(はくも)さん(72)＝本名・和美＝。平成28(2016)年に現代の名工(卓越技能賞)、令和元(2019)年11月には黄綬褒章を受章した。2代目・池田征二さん(40)とともに、50年近くにわたって「奈良べっ甲」の伝統技術を守り続けている。

## 挑戦

～伝統を未来へ 紡ぐため～



池田工房(桜井市)の池田柏藻さん・征二さん親子

「奈良べっ甲」の技術を親子で継承する池田柏藻さん(左)と征二さん。テーブル両側がタイマイの「べっ甲」＝桜井市茅原の池田工房で

池田さんとべっ甲と出会いは、実兄の紹介で昭和39(1964)年に東大阪市の布施で山田白水師匠と会ったことが機。大三輪中学校を卒業後、迷わず住み込みで師匠のもとへ。そこで10年間修業を積んで、昭和49(1974)年に独立。柏藻という号をもらい、現在の工房を構えた。

「小さい頃からものづくりが好きだったので、仕事でしんどいとは思わなかった。ただ、夜中にホームシックで泣いたりとかはありました。…」と。池田さんは、96年、9年、10年とリング、ネックレス、帯という気持ちが強かったです」と住み込みでの修行時代を振り返る。

材料に使うのは、ウミガメの一種・タイマイの甲羅。日本近海には生息しない。カリブ海、インドネシア近辺、大西洋の温かい海でしか生息しない。日本では長崎べっ甲、難波べっ甲、江戸べっ甲と全国3地区でべっ甲工芸が継承されてきた。

池田さんの奈良べっ甲は、難波べっ甲の流れをくむ。タイマイの甲羅は、1匹でうろこ状に13枚付いている。背甲、爪(縁草)の古典柄がある。正甲(腹甲)の中から、作品にあった生地を選ぶ。それぞれの部位で色合いや模様が変わってくる。

透かし彫りには「麻の葉」「七宝柄」「青海波」「唐草」の古典柄がある。正倉院のデザインと出会う前は、古典柄の透かしをやっていた池田さん。「正倉院のデザインは、シル



正倉院銅燻炉の連珠文様と三弁花をデザインした作品



庭園内の井戸から、べっ甲細工が出土した聖徳太子ゆかりの上之宮遺跡(桜井市内)

## 真骨頂の「透かし彫り」集大成

池田工房の真骨頂はクロードから渡ってきた「透かし彫り」。素材の特性を生かしながら下絵を描き、細い糸ノコなど幾種類もの道具を駆使して下絵に沿って彫っていく。そして、磨き上げて仕上げる。

池田工房には、かんざし、アブセサリー、ペンダント、ブローチ、イヤリング、ネックレス、帯留めなど多種多様なべっ甲製品がそろっている。池田さんは15年ほど前から、自ら販売も手掛けている。全国のデパートの展示、販売に出かけることも多い。これまでの最高は年に約30回。ところが、今年は新型コロナウイルスの影響で売り上げも半減。持続化給付金の申請をしたぐらいに落ち込んだ。

池田さんは「日本の資材で生かす」と話している。最近行った高島屋だと午後7時から9時にかけては基本的な資源だと思いがままです。朝9時から入店して準備して10時かを世界に売るのが資源なりたいです」と、体を乗りこえて8時まで11時間労働の1つだと思っています。去年、俳優の藤岡弘工芸を維持していくことスグ越しの面談はきついです。お客さんとのマッさんがテレビ番組の取材は容易くはない。池田工房には池田さんが若い頃えを感じながらの本音の継承こそ、日本の命元に残る。それに加えてその隣で父に師事する征二さんの姿が、この道です」と、ほおを緩ませる。

18年。師匠との違いは、甲の「切り文字」。家紋の下に入れるものだから、わりと切りの文字をせん。その時その時に、売れるもの、皆さんに理で抜く作業で、透かし彫り解してもらえものを作ると二生懸命なので、透かし彫りは一生懸命。だから、夢はもう一つ。透かし彫りは一生涯匠から仕事をもらって生ものを皆さんに伝えたい。透かし彫りは息子が活してきたわけです。透かし彫りを見る機会が少なくなってきたので仕事をやって、納めたいです。知ってもらいましょう。知ってもらいたいです。そうしたら名付ける以上は、それいろいろな天然素材の材料また理解してもらえらるるに恥じないような作品を、モノを作るといって、親子ともども作り続けて

も半減。持続化給付金の申請をしたぐらいに落ち込んだ。池田さんは「日本の資材で生かす」と話している。最近行った高島屋だと午後7時から9時にかけては基本的な資源だと思いがままです。朝9時から入店して準備して10時かを世界に売るのが資源なりたいです」と、体を乗りこえて8時まで11時間労働の1つだと思っています。去年、俳優の藤岡弘工芸を維持していくことスグ越しの面談はきついです。お客さんとのマッさんがテレビ番組の取材は容易くはない。池田工房には池田さんが若い頃えを感じながらの本音の継承こそ、日本の命元に残る。それに加えてその隣で父に師事する征二さんの姿が、この道です」と、ほおを緩ませる。

18年。師匠との違いは、甲の「切り文字」。家紋の下に入れるものだから、わりと切りの文字をせん。その時その時に、売れるもの、皆さんに理で抜く作業で、透かし彫り解してもらえものを作ると二生懸命なので、透かし彫りは一生懸命。だから、夢はもう一つ。透かし彫りは一生涯匠から仕事をもらって生ものを皆さんに伝えたい。透かし彫りは息子が活してきたわけです。透かし彫りを見る機会が少なくなってきたので仕事をやって、納めたいです。知ってもらいましょう。知ってもらいたいです。そうしたら名付ける以上は、それいろいろな天然素材の材料また理解してもらえらるるに恥じないような作品を、モノを作るといって、親子ともども作り続けて

透かし彫りには「麻の葉」「七宝柄」「青海波」「唐草」の古典柄がある。正倉院のデザインと出会う前は、古典柄の透かしをやっていた池田さん。「正倉院のデザインは、シル

透かし彫りには「麻の葉」「七宝柄」「青海波」「唐草」の古典柄がある。正倉院のデザインと出会う前は、古典柄の透かしをやっていた池田さん。「正倉院のデザインは、シル

**池田工房**  
 桜井市茅原168  
 (JR桜井線三輪駅下車、北へ徒歩10分)

かんざしやネックレスなど、べっ甲装身具の即売のほか、世界でたった1つのオリジナルアクセサリ一作りの体験もできる。完全予約制で、1回につき4人まで。営業時間は午前10時～午後5時。定休日は定まっていない。予約問い合わせは☎0744(43)4734へ。